



産卵場所の砂を掘るアカウミガメ。IWKTVで放送した海へ帰るウミガメの映像はこの時のもの。

夕方の塩屋の浜でウミガメ産卵
 先日、塩屋の浜で、珍しい光景に遭遇しました。
 7月1日、夕方6時過ぎ、塩屋の浜にウミガメが上陸しているのを通りかかった男性が発見。最初は黒い影を岩かと思ったものの、手びれを動かすしぐさでウミガメと分かったそう。約1時間後、地域の人々が遠くから見守る中、無事に産卵を終えた母ガメはゆっくりと海へ帰っていきました。
 黒潮町の海岸では、毎年5月から8月中旬にかけて、アカウミガメが産卵のため上陸します。通常は夜間から早朝にかけてひっそりとやってきます。日没前に見ることとはほとんどなく、人々は「こんなこと初めて」と驚いていました。



森岡唯さん(左)と隅野かなさん。大阪出身の隅野さんは、「保護活動に興味があり、せっかく黒潮町に来たからやってみようと思った」そう。

ウミガメ保護員に高校生を任命
 ウミガメの卵は、海水に触れるとふ化しないため、黒潮町では、産卵された卵をいったん掘り起こし、入野の浜のふ化場へ移動させ保護しています。保護した卵は、7月末から9月末にかけてふ化し、海に放流しています。
 長年ウミガメ保護員として活躍いただいた吉村脩さんに代わり、今年7月から、大方高校1年の隅野かなさんと森岡唯さんが、他の従事者と協力して保護活動を行っています。
 まだまだ産卵シーズンは続きます。町内海岸でウミガメが産卵した痕跡を発見した場合は、役場商工観光係(☎43-2113)までご連絡ください。



ぐっち協力隊がゆく!

地域おこし協力隊・田口佳子
 ☎43-3306 (旧馬荷小学校)

こんにちは。私の家の庭でも夏野菜がたくさん収穫できるようになり、トマトが色づいていくのを毎日楽しみにしています。

さて、今月は1200年前にタイムスリップします。

9月20日(土)、四国霊場第26番金剛頂寺(室戸市)住職・坂井智宏さんをお迎えして「四国遍路開創1200年と空海の足跡を辿る会IN黒潮町」というイベントを行います。皆さんもご存知の通り、1200年前、お大師さんが旅の途中で道に迷われ、蛸瀬川流域に数々の足跡を残していきました。中でも有名なのは、道に迷って困っていたところを一晩泊めてお接待した夫婦に心打たれたお大師さんが杖を突き、そこから冷泉がこんこんと湧き出るようになったとか、年に7回も収穫できる栗が生えるようになったとか。中にはお大師さんが地元の人に「水をください」と言ったがもらえず、川を枯らしたという話もあるそうで、現在でもそこだけ水はなく地下を流れているそうです。

皆さんは他にもお大師さんにまつわる話を聞いたことがありませんか? ぜひ、私や、若い人、子どもたちに聞かせてくれませんか?

9月20日、旧馬荷小学校に来てください。あなたがまだ知らない黒潮町に出会えるかもしれません…。



馬荷・福堂の大師堂



馬荷温泉の冷泉祠

※「四国遍路開創1200年と空海の足跡を辿る会 | N黒潮町」の詳細は別紙チラシをご覧ください。